スポーツ庁
JAPAN SPORTS AGENCY

【山形県飯豊町】
令和５年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業
（運動部活動の地域移行に向けた実証事業）

自治体名	山形県飯豊町
担当課名	社会教育課
電話番号	0238-72-3111

1．自治体の基本情報

基本情報

人口	6,499人	部活動数	9部活
公立中学校数	1校	市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
公立中学校生徒数	154人	市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定に向けて準備中

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

飯豊中学校においては、学級・学年の枠を超えた集団の中でスポーツや文化活動を行うことを通して、一人ひとりの心身の調和的な発達を図るとともに、目標を持ちその達成のために互いに支え合い、精一杯努力できる生徒を育て、生涯にわたって、スポーツや文化活動に親しんでいく素地をつくることを目標に、運動部7部、文化部2部が活動を行っている。

課題として、部員数の減少により、単独チーム編成や団体戦メンバーを確保できない部も存在し始めている。

また、休養日を設けているものの、土日を含む時間外の指導が顧問の負担となっている。

部活動の地域移行については、指導者の確保や、受け皿となる団体の整備等課題は多い。このような中、総括コーディネーターを配置し事業を推進する計画であったが選任するには至らず、事業を実施することは困難であった。

○部員数（現中学1・2年生）
- 野球部：13人
- サッカー部：19人
- 柔道部：2人
- 卓球部：男子12人/女子2人
- ソフトテニス部：5人
- バスケットボール部：10人
- バレーボール部：14人
- 吹奏楽部：6人
- 美術部：14人

○部活動コーチ数
- 野球部：2人
- サッカー部：3人
- 柔道部：3人
- 卓球部：2人
- ソフトテニス部：1人
- バスケットボール部：2人
- バレーボール部：2人
- 吹奏楽部：1人
- その他（陸上競技1人、スキー3人）

2．実証内容と成果

運営体制・役割

▼運営体制図（市区町村における推進体制図）

中学校部活動地域移行にかかる準備検討委員会

事務局
教育委員会社会教育課、教育総務課

関係団体からの意見を集約

飯豊町立飯豊中学校　校長会　中学校父母と教師の会

各小学校PTA会長　スポーツ協会　芸術文化協会

スポーツ少年団本部　いいでスポーツクラブキララ

各競技団体(連盟・協会)　スポーツ推進委員会

▼行政組織内での役割分担

● **教育委員会**（教育総務課）
・中学校との連絡・調整
・外部指導者の調整
・保護者・生徒への地域移行にかかる情報提供

● **教育委員会**（社会教育課）
・総括コーディネーターの配置
・運営団体の組織化
・指導者の確保

年間の事業スケジュール

令和6年1月23日 「中学校部活動地域移行にかかる準備検討会」開催
今後、中学校部活動地域移行にかかる準備検討会で出された意見、質問事項等を整理し検討を重ねながら、準備委員会等の組織を設置予定。

2．実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

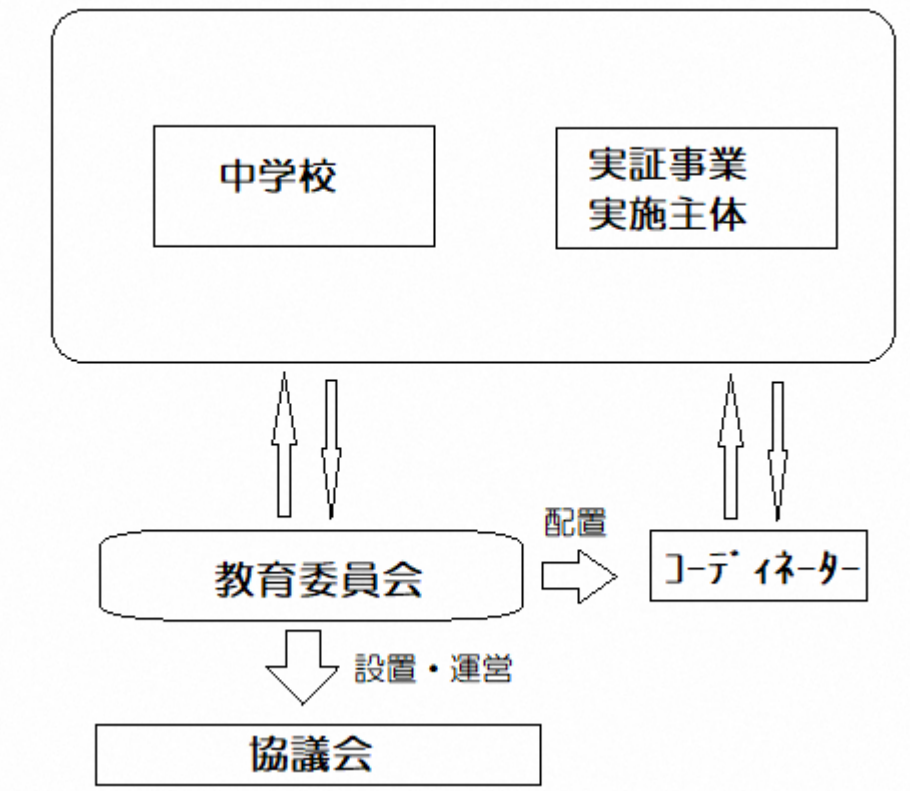
拠点校数	飯豊中学校	地域クラブ活動に取り組んだ種目	なし
地域クラブ活動に取り組んだ部活動数	0 部活		

主な取組例

▼活動概要

拠点校名	飯豊中学校
地域クラブ活動に移行した部活動数	0部活
地域クラブ活動で実施した種目	なし
運営主体名	—
運営類型	—
１か月あたりの平均的な活動回数	—
指導者の主な属性	—
活動場所	—
主な移動手段	—
１人あたりの参加会費等（年額）	—
１人あたりの保険料	—

▼運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



2．実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保証・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取り組み
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

▼取組項目名：ア．関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項	・中学校部活動地域移行にかかる準備検討会を実施した。（１月２３日） 県部活動改革ガイドライン説明、先進事例の紹介（鮭川村）、質疑・意見交流を行った。 ・コーディネーターの配置ができず、行政担当者で事業を進めた。
取組の成果	・関係団体に対して、部活動改革における現状や考え方を広めることができた。 ・来年度以降の町の推進計画やガイドライン、運営体制の構築に向けた足掛かりをつくることができた。
特に工夫した事項	・人口などが同規模の鮭川村の実践事例をお聞きすることで、より実感を伴った理解につなげることができた。 ・関係団体から幅広く準備検討委員を委嘱することで、様々な視点で意見をいただくことができた。
今後の課題と対応方針	・コーディネーターの適任者の人選が課題であるが、早期のコーディネーターの配置により、事業のスムーズな運営につなげたい。

2．実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保証・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取り組み
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

▼取組項目名：イ：指導者の質の保証・量の確保

取組事項

・中学校部活動地域移行にかかる準備検討会を実施した。（１月２３日）
県部活動改革ガイドライン説明、先進事例の紹介（鮭川村）、質疑・意見交流を行った。
・コーディネーターの配置ができず、行政担当者で事業を進めた。

取組の成果

・次年度以降、地域クラブ活動を実施するにあたって、関係団体から指導者を派遣いただくことが必要になるので、関係団体の代表の方の理解を深めることができたのは有益であった。

特に工夫した事項

・実際に現場で子どもたちの指導にあたり、受け皿として期待されるスポーツ少年団の単位団指導者を準備検討委員として委嘱した。
それぞれの団で中学生を受け入れることを想定して課題等を挙げていただくことができた。

今後の課題と対応方針

・地域移行にあたり、指導者の確保が大きな課題であるが、スポーツ少年団指導者や中学校外部コーチ等による指導者確保に努める。

2．実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保証・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取り組み
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

▼取組項目名：オ：内容の充実

取組事項	・生徒のニーズに応じた活動の検討のため、生徒へのアンケートを実施する計画であったが、コーディネーターを配置できなかったことで今年度の実施はできなかった。
取組の成果	・生徒アンケートが実施できなかったため、成果なし。
特に工夫した事項	・生徒アンケートが実施できなかったため、工夫した点はなし。
今後の課題と対応方針	・アンケートを実施できず、生徒のニーズ把握が課題となったため、来年度、アンケートを確実に実施し、児童・生徒等のニーズを把握する。

2．実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保証・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取り組み
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

▼取組項目名：キ：学校施設の活用等

取組事項	・１月の中学校部活動地域移行にかかる準備検討会では、学校施設の活用についての具体的な検討はできなかったが、終了後のアンケートにおいて「活動場所・用具の確保」を大きな課題として挙げている委員が４名いた。
取組の成果	・地域クラブ活動の実施に当たっては、活動場所として学校施設の開放や、学校備品等を貸し出しを求める声が具体的に挙がった。
特に工夫した事項	・特になし
今後の課題と対応方針	・町内の施設が限られており休日の活動場所の確保に課題はあるが、地域クラブ活動の実施に向けて、鍵の貸し出しや会場使用のルール作成など、必要な準備を進めたい。

2．実証内容と成果

参考資料（アンケート結果、広報物、協議会等で使用した資料の抜粋等）

〇山形県教育局スポーツ保健課　生涯スポーツ主査　仙野　達也　氏
・本県の取組み
・「山形県における部活動改革のガイドライン」について
・山形県における部活動改革の進捗状況

〇さけがわ友遊クラブ　クラブマネージャー　阿部　諭　氏
・鮭川村のこれまでの取り組みの経緯

〇鮭川村　教育委員会　黒坂　洋平　氏
・鮭川村における行政対応

〇さけがわ友遊クラブ　クラブマネージャー　伊藤　淳子　氏
・鮭川村における現在の活動状況

【準備検討会　説明事項】

〇現在、小学生や中学生にクラブや部活動などでスポーツの指導を行っていますか。
は　い　10人
いいえ　31人

〇今後、飯豊町の休日の中学生の部活動の段階的な地域移行を進めていく上で、どのようなことが課題になると思いますか。
① 指導者の確保・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・32人
② 活動場所・用具の確保・・・・・・・・・・・・・　4人
③ 全体を統括する運営体制の整備・・・・・・17人
④ 顧問とクラブ間の連携・調整・・・・・・・・・・11人
⑤ 家庭の金銭的負担の増加・・・・・・・・・・18人
⑥ 交通手段の確保・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8人
⑦ 生徒・保護者の理解の促進・・・・・・・・・・12人
⑧ 生徒のニーズの把握・ニーズへの対応・・・　4人
⑨ 指導者向けの研修会・・・・・・・・・・・・・・・ 3人
⑩ その他（財源問題）・・・・・・・・・・・・・・・ 1人

【アンケート結果】

2．実証内容と成果

参考資料（活動写真）



【研修会場】



【講師陣への質問記入】



【講師陣による質問事項の整理】



【講師陣による回答】

2．実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和６年１月

「中学校部活動地域移行にかかる準備検討会」開催

・人口など、同規模の自治体で先進地である鮭川村の取り組みを学ぶことで、当町の実情にあった地域移行が想定できるように設定した。

・参集範囲を広げ、各小中学の校長や保護者代表、文化活動団体、スポーツ協会やスポーツ推進員のほか、各競技団体やスポーツ少年団の指導者など関係する多くの人に部活動の地域移行に関する現状の理解と情報を共有することを目的とした。

・参加者からの意見や課題を集約することで次年度以降の検討材料となるようアンケートを実施した。

令和６年３月（予定）

準備組織の設置に向けた検討会の開催

・中学校部活動地域移行にかかる準備検討会での意見、質問を議論し、アンケート結果等を考慮し、準備組織の立ち上げに向けた検討会を実施予定

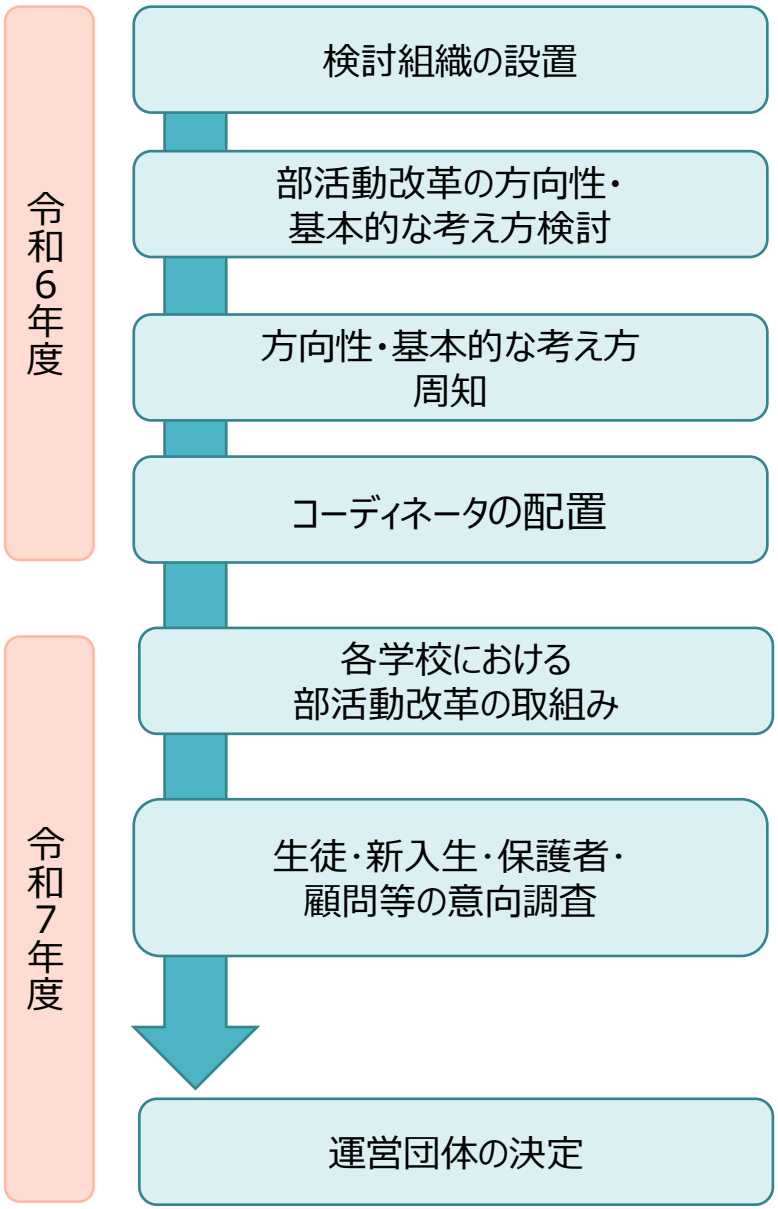
令和６年度～

山形県のガイドラインに沿った事業の検討・実施

・検討組織の設置
・コーディネーターの配置
・指導者確保
・運営団体の決定　等

3．今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けた今後のロードマップ



部活動改革について検討する検討組織を設置する。

検討組織において、「山形県における部活動改革のガイドライン」を踏まえて、方向性と基本的な考え方を検討

部活動改革の方向性及び基本的な考え方を学校・関係団体へ周知

地域移行の各調整を図るコーディネーターを配置

中学校は、部活動の任意加入・部活動数の精選等に取り組む。

中学校は、部活動毎に、生徒・保護者の意向調査などを踏まえ、検討を進める。

活動のできる体制が整った団体から、休日の活動の地域移行を進める。